

■丹下健三 建築家としてトータルに都市をデザインすることに情熱、際立ったシンボル性を創出し、“世界のタンゲ”になった。

たんげけんぞう

大正政変・1913 = 大阪府堺市で、住友銀行社員丹下辰世とテイの三男に生まれる。

父の転勤によって生後まもなく中国の漢口へ。数年後さらに上海のイギリス租界に移り住み、

本格政党内閣1918 = 5歳：上海の日本尋常小学校に入学。

大暴落・1920 = 7歳：父の出身地の愛媛県今治市に一家で移住。今治の第二尋常小学校に編入。

原爆首相暗殺1921 = 8歳：

水平社結成・1922 = 9歳：

門本時代始・1926 = 13歳：今治中学に入学。

海軍軍縮条約1930 = 17歳：飛び級で、四年修了し、広島高校理科甲類に進学。

満洲事変・1931 = 18歳：同校図書室で見た「外国雑誌のル・コルビュジエの記事に感銘を受けて、建築家を志すようになり、

国際連盟脱退1933 = 20歳：東京帝国大学建築科の受験に失敗、

帝人疑獄事件1934 = 21歳：再び失敗し、徴兵逃れのため、東北帝国大学金属学科の欠員狙うも叶わず、日本大学芸術学部映画学科に在籍、ほとんど登校せず、哲学書などを読み耽り、名曲喫茶で友人と語り合い、バーに出没、ようやく、
芥川直木賞始1935 = 22歳：東京帝国大学工学部建築科に入学。教授の岸田日出刀には後々恩顧を受けことになる。

日中戦争始・1937 = 24歳：1年上にいた立原道造は、卒業設計も含めて、3年連続で{辰野賞}で、卒業し、翌々年に死去。

健保+総動員1938 = 25歳：卒業設計は{辰野賞}で、前川男建築事務所に入所。

第二次大戦始1939 = 26歳：雑誌{現代建築}に、「論文「ミケランジェロ嬢-ル・コルビュジエ論への序説として-」」を発表、

大政翼賛会・1940 = 27歳：

日米開戦・1941 = 28歳：設計を担当した「岸記念体育会館(初代)」が竣工。東京帝国大学大学院に入り直し、高山英華の研究室に入る。主に都市計画の研究・業務に従事し、建築を都市のなかで考えるベースが築かれて行く。

・1942 = 29歳：大東亜省設置とともに実施された、大東亜建設記念造営計画設計競技に1等入選、主軸をにおいて統合した壮大なプランと、日本画を想わせるその透視図によって、後世まで人々の記憶に留めさせることになり、

創価学会検挙1943 = 30歳：「続く、在盤谷日本文化会館設計コンペにも1等入選して、その名が一躍知られるようになった。

敗戦・1945 = 32歳：父危機の知らせを受けて帰郷途中の尾道にいた時、広島に原爆投下、翌日、実家に到着するも、父はすでに他界し、跡形も無くなっていた。原爆投下と同日の今治空襲で、最愛の母も失う。想い出の地広島への、戦災復興院の復興計画に、残留放射能の危険性が心配されたにもかかわらず、志願して担当を申し出、

新憲法公布・1946 = 33歳：都市研究の成果を日本建築学会で発表して、修了し、同大学建築科助教授に就任すると、浅田孝、大谷幸夫ら研究室のスタッフとともに、広島入りし、都市計画業務に従事。いわゆる“丹下研究室”がスタート、

新憲法施行・1947 = 34歳：戦災復興都市計画のうち、群馬県前橋市と伊勢崎市を担当。福島市の依頼による福島地区都市計画、

極東裁判決・1948 = 35歳：「建築をめぐる諸問題」、

三大事件・1949 = 36歳：*広島市主催の広島平和記念公園のコンペに参加し、見事、1位入選。慰霊碑からの南北軸線上に、単なる一廃墟に過ぎなかった広島県産業奨励館を原爆被災のシンボルとして位置づけ、「原爆ドーム」が誕生。

朝鮮戦争始・1950 = 37歳：経済安定本部資源調査会事務局地域計画班の依頼で、研究小論文「地域計画の理論」を執筆。以後2年、立川基地跡地の文化都市計画、北海道稚内市の都市計画に従事する間、

独立回復・1951 = 38歳：「ロンドンでの、CIAM(国際近代建築会議)に招かれ、「広島計画」を発表、世界に知られる初の海外旅行。

TV放送始・1953 = 40歳：成城に、自邸を建てる。

自衛隊発足・1954 = 41歳：「愛媛県民館」で、日本建築学会作品賞。

55年体制始・1955 = 42歳：「図書印刷原町工場」でも同賞。広島平和記念公園に建築された「広島平和記念資料館」は、西洋起源のモダニズムと日本建築の伝統様式を統合した記念碑的作品で、建築家“世界のタンゲ”のデビュー作になった。

なべ底不況・1957 = 44歳：5年前のコンペで1等になって実現した「旧東京都庁舎」もモダニズム建築の傑作で、長く、東京のシンボル・ゲート的な役割をしたが、のちに、新都庁舎を設計することになった際、取壊すことを気にも留めなかったように、多くの作品が現存しない。都市が変化すれば、建築も変わるという意識だったからであろう。

イタリヤ・1958 = 45歳：「倉吉市庁舎」で、日本建築学会賞。「香川県庁舎」は、全国の地方自治体庁舎のモデルになり、「旧草月会館」も、話題になった。アメリカ合衆国建築家協会(AIA)の第1回汎太平洋賞。

美智子妃・1959 = 46歳：大学院時代の成果をもとにした論文「大都市の地域構造と建築形態」で、工学博士の学位を受ける。

安保闘争・1960 = 47歳：

1949病始・1961 = 48歳：丹下健三・都市・建築設計研究所を設立。「東京計画1960」は、海上都市計画の嚆矢としても評価が高い。

TV宇宙中継始1963 = 50歳：高山英華の尽力で、東京大学工学部都市工学科が新設され、ようやく、教授に昇る。

東京リボルブ1964 = 51歳：広島平和記念公園と同時期に行われた、世界平和記念聖堂のコンペでも注目されるも、施主のカトリック教会が嫌で、不採用(1等なしの2等当選)になったことへの怨念を晴らすかのように、*現代キリスト教会建築の中でも屈指の「東京カテドラル聖マリア大聖堂」を設計し、オリンピックのための「国立代々木屋内総合競技場」は、吊り構造の完成作とも評されたばかりでなく、出場した選手たちにも深い感動を与え、大会後、IOCから特別功労者として表彰され、まさに、世界的イベントに対応する建築になって、頂点を極め、

大学紛争始・1965 = 52歳：日本建築学会特別賞、イギリスRIBAゴールドメダル。原爆ドームは、保存が取壊しかで対立が続いたが、いざなぎ景気1966 = 53歳：「山梨文化会館」。アメリカ合衆国AIAゴールドメダル。広島市議会で、満場一致で、永久保存が決まって、ヒロシマのシンボルになる。以後、ユーゴスラビアの(現在のマケドニア共和国の首都)スコピエの震災復興都市計画を皮切りに、中東や東南アジアを中心に、世界のビッグプロジェクトに、長期に闊与して行く。

美濃部都知事1967 = 54歳：地理学者木内信蔵とともに、「日本列島の地域構造・図集」をまとめるなど、異分野のプロのための共通言語をつくることに専念した点で、特異であった。

大阪万博・1970 = 57歳：香港大学から名誉博士号を授与された際、同席した、シンガポールのリー・クアン・ユー首相と意気投合。「東京カテドラル」で、ローマ法王庁聖グレゴリオ大勲章。大阪万博では、京都大学教授の西山卯三と共に総合プロデューサーをつとめ、その中心施設である「お祭り広場の大屋根」の設計を手がけ、「太陽の塔」が突き破ってそそり立つという岡本太郎とのコラボレーションは、語り草になっている。

ドミョック・1971 = 58歳：アルジェリア・オラン総合大学、

日中国交回復1972 = 59歳：サンジアラビアのファイサル王妃から王宮のデザインを依頼されるも、

石油ショック1973 = 60歳：フランス建築アカデミー・ゴールドメダル。

角栄金脈辞任1974 = 61歳：東京大学を定年退官、名誉教授となる。ルイス・カーンとともに、テヘラン市新都心開発に取り組む。

クワッドール事件1975 = 62歳：国王が暗殺されて頓挫。

田中角栄逮捕1976 = 63歳：西ドイツ政府ブルー・メルリット勲章。

JALバジャック・1977 = 64歳：「旧草月会館」は20年もたたないうちに、新しい「草月会館」、

革新大敗北・1979 = 66歳：イタリア国家有功勲章コメンダトーレ章。東京オリンピック時に副知事で、大阪万博の事務局長だった鈴木俊一が、都知事に立候補するにあたり、その支援団体のトップに就任し、

貿易摩擦問題1980 = 67歳：鈴木は都知事に当選。文化勲章。

・1981 = 68歳：「ナイジェリア新首都計画」が始まる。超高層コンペで1等以降、シンガポールの都市計画に深く関与。

中曽根内閣・1982 = 69歳：「赤坂プリンスホテル新館」も、わずか30年で取り壊された。

・1984 = 71歳：フランス芸術文化勲章コマンドール章。

ジャポニカ機墜落1985 = 72歳：

バブル始・1986 = 73歳：新東京都庁舎コンペ開催。日本における現代建築の確立と国際的発展への貢献で、日本建築学会大賞。

竹下内閣・1987 = 74歳：翌年にかけて、新日本建築家協会(現在の社団法人日本建築家協会)初代会長。建築家に贈られる世界最高の賞とされるアメリカ合衆国プリツカー賞を、日本人として、初めて受賞。

ソ連崩壊・1991 = 78歳：ノートルダム寺院を意識したといわれる「新東京都庁舎」。

バブル崩壊・1992 = 79歳：「国際連合大学」、

55年体制終・1993 = 80歳：高松宮殿下記念世界文化賞(建築部門)。

自社さ連立・1994 = 81歳：勲一等瑞宝章。

・1996 = 83歳：フランス政府より、レジオンドヌール勲章。臨海副都心は、まさに、「東京計画1960」に則るよう造成されているが、この年に建築された「フジテレビ本社ビル」は、そのシンボルになっている。

イラク戦争・2003 = 90歳：

小泉郵政選挙2005 = 92歳：没した。

Wikipedia、豊川斎赫「丹下健三 戦後日本の構想者」、